慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	イカダのエチモロジイ
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.1 (1937. 4) ,p.132- 132
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370400-0132

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

イカダのエチモロジイ

マレイ語に於て筏のことを rakit と呼んでをるが、マレイ半島の山地族は之を rakot 又は Yakit と呼んでをる。此の語は恐らく竹木などを縛つて作るところから起つた語であらう。即ち同じくマレイ半島山地族は bind（結ぶ）を jeköd, iket, ikat と言ひ、マレイ語で ikat と言つてをる。此の語はモン・クメル語にも共通で、モン語で dăkat, セダン語で köt, スチアン語で kot, バナル語で kŏt, köt などと呼ばれてをる。日本語のイカダも同樣のエチモロジイから起つたのではあるまいか。即ちカタムルの語根のカタ（堅）がイカダの語根を成してをるのではなからうか。t が d といふ濁音に化すのは我國語に於てよく見る現象である。西村眞次氏がイカダを iki-ada のつまれるものとなし、もとは uki-ada で ada は南ツングース語 Goldi 語の舟を意味する語であると推せられてをるが、アダと言ふ形の舟を指す語が我國に存しない以上此の考へは少しく大膽すぎるやうに思はれる。我國のイカダーカタの形式を南方のヤキト――イカトの形式と比べると非常に似てをるパラレルであるやうに考へられる。我國のイカダの語原を考察するのには、北よりも寧ろ南方を精査する方がより妥當ではあるまいか。（松本信廣）